



# With you

ウィズユー

日本国連HCR協会ニュースレター

No.3 2004年 第3号



## C O N T E N T S

- 続く人道危機 2  
スーダン難民に緊急支援を
- アンジェリーナ・ジョリー  
(UNHCR親善大使)がスーダン難民  
支援をアピール
- 3  
アフリカ難民に教育を！  
ファティマ・シェリフ・ヌル氏  
インタビュー
- 4  
アフリカ難民に家を！  
助っ人会員活動報告
- 5  
新事務局長就任 / 支援者の声  
「毎月倶楽部」に参加しませんか？  
ご寄附の方法いろいろ
- 6  
難民支援のチャリティ・イベント  
パリナック講師派遣のお知らせ

「われわれはスーダンに戻りたいとは思わないし、戻ることもできません。なぜなら民兵のジャンジャウィードがまだ武装しているからです」

アリ・ザーガンさん  
(チャドの国境の町アドレ近くにて)  
→2ページ「続く人道危機」参照



6月20日は「世界難民の日」



# 続く人道危機 スーダン難民に緊急支援を!

**昨**年以降、スーダン西部のダルフル地方で、アラブ系民兵組織ジャンジャウィードが、非アラブ系の黒人住民の村々を襲い、殺害、暴行、略奪などを繰り返しています。国連の調査団が「最悪の人道危機」という状況で、隣国チャドに脱出した難民の数はすでに20万人に上ります。

UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)は現地事務所と人員を増やし、緊急援助活動を進めています。チャド政府やNGO(非政府組織)の協力を得て、11カ所に難民キャンプを設営し、約19万人を保護しています。しかし、収容能力を超える数の難民がキャンプに身を寄せているため、新たなキャンプの設営が急務となっています。

10月から一部のキャンプで学校教育が始まりました。スーダンでは学校に行ったこともない子どもたちが、難民キャンプで教育を受ける機会を得たことは喜ばしいことです。しかし、その一方で、援助物資が不足し、非常に厳しい生活が続いています。特に、「地球上でもっとも乾いた土地のひとつ」といわれるチャド東部で、20万人の水を確保することは不可能な状況です。援助物資の不足は、当初スーダン難民を温かく迎え入れたチャ

ドの地元民に負担を強いることになり、難民とのあいだに軋轢を生む原因となっています。雨季が終わった今、さらに10万人の難民がチャドに脱出することも考えられます。

ダルフル地方では約600の村が破壊されたと推定され、逃げ出した160万人の国内避難民は深刻な身の危険に怯えています。寒暖の差が大きくなる今、約70万人がテントの支給を待ち望んでいます。多くの男性が殺害され、女性は水を汲みに外に出るだけでレイプされるという状況が続くダルフルで、UNHCRは、国連人権高等弁務官事務所(UNHCHR)、国連人道問題調整局(OCHA)、アフリカ連合(AU)各NGOと連携し、国内避難民の援助活動を強化しています。

2004年3月からHCR協会は「緊急ファンド」として、スーダン難民の緊急支援を呼びかけています。これまでに多くのご支援をお寄せいただきましたことに、心より感謝申し上げます。しかし、スーダン難民・避難民が故郷に帰還する見通しはまだ立っていません。チャドとスーダンにまたがる地域の援助活動は、厳しい自然環境や地理的条件により、もっとも困難なものといえます。引き続き、温かいご支援をお願いいたします。



テントの支給を待つ間、ビニールシートの下で暮らすスーダン難民。UNHCR / H. Caux



国境付近で砂嵐に耐えるスーダン難民。テントの支給が急務。UNHCR / H. Caux

スーダン難民支援は「緊急ファンド」とご指定ください。  
計: 6124万4847円 件数: 1910件  
(2004年3月1日 - 10月27日)

## UNHCR 親善大使 アンジェリーナ・ジョリー スーダン難民支援をアピール

UNHCRの親善大使である米国人女優アンジェリーナ・ジョリーは、チャドに脱出したスーダン難民の給水事業に、自ら5万米ドル(約550万円)を寄附し、スーダン西部のダルフル地方における人道危機に対する支援を世界に呼びかけています。

6月初めにチャドの難民キャンプや国境の町ティネを、10月末にはスーダンのダルフル地方を訪問し、スーダン難民および国内避難民の状況を自身の目と耳で確認しました。

アンジェリーナは、最近民兵にレイプされたという避難民の少女の話聞き、ハルツームでの記者会見で、「食べ物や

衣類も大事ですが、治安の回復がもっとも重要」と訴えました。「ダルフルの状況を改善するには、まず国内避難民の保護と支援が第一であり、それを実現するにはUNHCRの資金は足りません」と国際社会の支援を呼びかけました。

HCR協会の井上職員も参加した難民事業本部主催の「チャドのスーダン難民キャンプ視察団」は6月6日、チャドのンジャメナ空港で、同じパリ行きフライトを待つアンジェリーナと話をする機会に恵まれました。1日違いで同じキャンプを訪問した視察団に対し、日本からの支援にも期待していると話してくれました。



チャドのンジャメナ空港にて。前列左から、小村真名子(難民事業本部)、アンジェリーナ・ジョリー、浅羽俊一郎(UNHCR)。後列左から、水元康治(外務省:カメルーン大使館)、中野卯一郎(外務省)、高橋一馬(緑のサヘル) 敬称略。撮影: HCR協会 / 井上清治

# アフリカ難民に教育を!

ファティマ・シェリフ・ヌル氏インタビュー



## 「Nabad(平和に向かって)」 「ソマリア難民・帰還民の女子教育事業」を語る

教育学士号と経営学修士号を持つファティマ・シェリフ・ヌルさんはソマリア出身です。1991年にUNHCR職員となり、北部イラク事務所を始め、クロアチア/セルビア、タンザニア、アルメニア、ジュネーブ本部に勤務し、2002年2月から国際協力機構（JICA）に出向しています。



机のない教室で一生懸命勉強するソマリア難民の少女たち。UNHCR / R. Hakozaki

まずソマリアについて教えてください。

アフリカ北東部の「アフリカの角」に位置し、美しく長い海岸線があります。ソマリ族は国内に710万人、エチオピアのオガデン地方を含む東アフリカ近隣諸国に120万人が生活しています。70%以上が遊牧民で、30%が交易等で生計を立てています。単一の民族、言語、宗教、文化で、社会は伝統的な氏族制度で成り立ち、おもに4つの血縁集団に分かれています。もともとは、美しい景観と豊かな自然資源に恵まれ、平和で安定した国でした。しかし、独裁政権を91年に倒した各勢力による政権争いが、内戦に発展してしまっただけです。

内戦はなぜ続いたのですか？

最初は独裁政治と人権侵害に対する反乱だったのですが、冷戦の終結、外部との利害関係、氏族制度と権力争いの結びつき、汚職、武器が簡単に手に入る環境、国際社会の関心の薄さなどによって、状況はますます悪化してきました。トマト一個を買うよりも、武器の方が安いほどだったのです。

内戦は社会にどのような状況をもたらしましたか？

無政府状態となり、皆が狂ったように学校や病院など、ありとあらゆる社会基盤を破壊しました。たくさんの国民が避難を余儀なくされ、ケニアをはじめ、イエメン、エチオピア、ジブチに逃れました。今では最貧国のひとつで、住民の45%が1日1ドル以下の生活をしています。内戦当事者間の和平合意は何度も破られています。今でも中央政府はないようなもので、大使館もないので、パスポートの更新さえできません。

ソマリア社会の中で、女性はどうな存在なのですか？

政治への参加や教育レベルは低いものの、財産の所有は男女平等であり、家庭での責任は重く、尊敬されています。例えば、伝統的なソマリアの移動式家屋を建てるのは女性の役割でしたし、日用雑貨や食料品などの小さな商売は、ほとんど女性が担っていました。しかし氏族間の争いは、多くの女性を暴力の対象に変えてしまいました。

ファティマさんご自身のこれまでの歩みを少し教えてください。

私は幼い頃から勉強が好きでした。教育熱心な父と伯父の応援もあり、イギリスの大学に留学し、修士号まで取得できました。その後ソマリアに戻り、女子教育に関する政府機関の仕事に携わっていましたが、1990年末にはじまった紛争によって、人生が一変しました。国家公務員だったため身を隠さざるを得ず、赤十字の飛行機でソマリアを後にしたのです。十分な教育と職業経験があったおかげで、その4カ月後にはUNHCRイラク事務所の職を得て、その後13年間、国際公務員として世界各地の紛争地域で仕事をすることができました。私の身内は難民となり、約7年間カカス国を流浪した後、イギリスに移住しました。

現在のソマリアの状況はいかがですか？

11月初め現在、アフリカ諸国の協力を得て選ばれた新しい議会と大統領はケニアに滞在していて、ソマリアにまだ入れない状況です。ここ数年で100万人近い人々がソマリアに戻っているようですが、まだケニアの難民キャンプに残る約13万人をはじめ、約20万人が周辺国で難民生活を続けていま

す。ソマリアに戻っても、一日一食を得ることさえ難しい生活で、7割以上が女性の収入に頼っているという調査結果があります。多くの学校が破壊されたままで、子どもの約20%（男子13%、女子7%）しか学校に行きません。その一方で、平和に向けた努力も続けられ、ソマリア全土の半分以上はかなり安定してきています。

少しずつ希望が見えてきているということですね。

平和運動を進めているある女性の言葉を紹介したいと思います。

「平和を説くことは簡単ではありませんでした。皆が自分の氏族を信じ、私も自分の氏族のことばかり思っていたからです。しかし、私は平和を築く決心をしました。今、私達は、学校を建て、病院を再開し、平和のために各軍閥のリーダーと交渉を進めています。」

私は教育の力を信じています。子どもたちが教育を受け、自分で判断できる力や寛容な精神を身に付け、自立できるようになることが大切です。今はまだ、ソマリアの人々は国際社会からの援助を必要としています。日本の方々がソマリアへの関心を持ち続けていただければ嬉しいです。

アフリカ難民に教育を！  
計：2120万8936円 件数：492件  
(2004年1月1日～10月27日)

## アフリカ難民に水を!

アフリカのように、ただでさえ水が少ない地域で、難民に水を供給することは極度に困難です。皆様の継続的なご支援に感謝申し上げます。近々、「水」に関する情報をまとめたいと思っています。

アフリカ難民に水を！  
計：704万8756円 件数：732件  
(2004年1月1日～10月27日)

# アフガン帰還民に家を！

「すべてを一からやり直すことは大変だとわかっています。私はアフガニスタンでは羊飼いでした。今から私は故郷に帰りますが、再び羊飼いができればと願っています。しかし、政府や他の援助機関の支援なしでは不可能です」。パキスタンの難民キャンプから、家族と共にアフガニスタンに戻ろうとしているシャー・ワリさんのコメントです。

**ア**フガニスタンでは20年以上も続いた戦争や干ばつのため、ピーク時には、約600万人が難民となり、主に隣国のイランやパキスタンに逃れ、約100万人が国内で避難民となりました。タリバン政権崩壊後、2002年春頃から帰還が本格化し、既に350万人が故郷に戻りました。しかし、帰還民を待ち受けていたのは、50万戸以上と推定される破壊されつくした家々です。このままではせっかく帰還した人々が

再び避難民になってしまう恐れがあります。アフガニスタンの復興を確固たるものにするために、住宅を再建し、帰還民が故郷に再定住できることが必要です。

パキスタンの首都ペシャワールから帰還したアラバーディさんは、アフガニスタンの首都カブールのチキンストリート（絨毯や工芸品を扱う店が集まる地域）にお店を構えました。その半年後にUNHCRの帰還事業により家族をペシャワールから呼び戻しました。アフガニスタンの絨毯職人の多くは避難先のペシャワールでお店を始め、アフガニスタンへ帰還後は、両国にまたがる雇用促進と経済的相互依存に大いに貢献しています。

UNHCRが地元当局やNGOと協力して推進している住宅再建プロジェクトは、2002年と2003年に計9万1144戸を再建しました。2004年はあらたに119万



日干しレンガを使った家の再建作業。  
UNHCR / N. Behring

人の人々が帰還すると想定され、2万7100戸を再建する予定で進められています（2004年の再建数は集計中）。

2002年10月以降、「アフガン帰還民住宅再建プロジェクト」として、皆様から継続的なご支援をHCR協会にお寄せいただいています。その総額は1億円に達しようとしています。日本の皆様からのご支援により多くの家族が再び同じ屋根の下で暮らせるようになりました。2005年も住宅を再建する必要があります。引き続きアフガン帰還民を見守ってください。

アフガン帰還民に家を！  
計：1322万4574円 件数：402件  
(2004年1月1日～10月27日)



ドアの支給を受ける帰還民。UNHCR / N. Behring

## 助っ人会員活動報告

### 第5回「助っ人会員と支援者の集い」 (6月 東京・UNハウス)

「世界難民の日」を記念し「報告会」とともに「会員と支援者の集い」を開催しました。UNHCR職員やゲストによる援助現場からの報告の後、「集い」では会員同士が難民支援への思いや意見を交換しました。現状を学んだ上で、一人ひとりが「できる事を、できる場所で、できる範囲で」続ける重要性を確認し合う場となりました。

### 第2回「助っ人講師養成講座」 (7月 東京・UNハウス)

UNHCRの活動や難民問題を理解し、協会の広報・募金活動の一翼を担う「助っ人講師」養成講座の第2回目を開講しました。難民保護や現場プログラムの入門講義に加え、日本で支援を広げるための活動について活発な議論が行われ

ました。多彩な10名の助っ人講師「第2期生」が誕生し、今後の活躍が期待されます。

### 「助っ人講師養成講座ダイジェスト版と交流会」(8月 兵庫・ひょうご国際プラザ)

同講座の初めての地方開催が神戸で実現しました。団体会員登録をしているNPO法人IMAGINEが会場を設定くださり、関西地区の会員が集いました。通常3週にわたって扱う内容を一日に凝縮し、会員自らが企画・発表者を兼ねました。助っ人講師「第3期生」が仲間に加わりました。

### 助っ人会員がイベント運営に協力

下記イベントははじめさまざまな場面で、助っ人会員の方々に運営や準備、広報・会場募金にご協力いただきました。心よりお礼申し上げます。

じゃがいもの会チャリティショー(5月)/「世界難民の日」写真展開催記念イベント(6月)/UNHCR・難民教育基金支援公演「パレエ」ジゼル(8月)/「命をみつめて世界の難民」小林正典写真展(9月)/国際協力フェスティバル(10月)

### より広いネットワーク作りを

今後の活動について意見交換される中で際立つ声は、会員同士の「ネットワーク作り」です。地域で活動する際、ひとりではできないことも、志を同じくする仲間が集うことで実現できるものは大きいということです。全国の支援者がより広いネットワークでつながり、活動を展開できるよう皆様とともに工夫していきたいと考えています。

助っ人会員の詳細は、協会ホームページ [http://japanforunhcr.org/www/suketo\\_top.html](http://japanforunhcr.org/www/suketo_top.html) をご参照ください。

## 新事務局長就任

### 「連帯の意識をもって支援の輪を・・・」

榎川勝也(えがわかつや)



新しい職場である「日本国連HCR協会」について、まわりの友人や知人に説明を始めると、まず、「HCRってなに？」という質問がです。そこで、私から「UNHCRって知ってる？」とたずねると、「聞いたことはあるけど、何だっけ？」という答えが返ってきます。そして、緒方貞子氏がトップとして活動していた国連難民高等弁務官事務所が、UNHCRであることを説明すると、「それでわかった。難民支援ですね」となります。それから、日本国連HCR協会が、UNHCRの日本における公式寄附窓口として、2000年に設立されたNPO法人であること、そして、日本の人々に世界の難民の状況を知っていただき、支援の輪を広げていく活動を担っていることを理解していただきます。

緒方貞子氏が国連難民高等弁務官として、2000年までの10年間、自ら先頭に立って世界中の難民キャンプを訪問し、困難な問題を解決していく姿(理念・決断力・行動力・指導力)に対し、世界の人々が敬意と賞賛を表しています。友人・知人との会

話を通して、日本人の多くが緒方氏に対して尊敬の念と誇りを感じていることを発見して、とても嬉しく思っています。

当協会に入って3週間が過ぎた9月末、UNHCR本部があるジュネーブでの会議に3日間参加しました。10カ国(U.S.A・カナダ・フランス・ドイツ・イタリア・スペイン・オランダ・ギリシア・オーストラリア・日本)が、民間からの難民支援をどのように啓発し発展させていくかについて、それぞれの活動を発表し学び合いました。各国ともに大変な苦労と努力をしていることがよくわかりました。

日本からの人道的な国際貢献として、ひとりでも多くの日本人たちが、世界の難民問題に関心を持ち、連帯の意識をもって支援の輪を広げていくことができるように、皆様と共に努力していきたいと思っています。

略歴:ソニー(株)で33年間、主として海外マーケティングを担当(ドイツ・オランダ・デンマークに計15年駐在)、ソニー教育財団で5年。2004年9月当協会事務局長代行、12月事務局長就任。

## 支援者の声



スーダン西部ダルフル地方の人道危機に、多くの皆様からご支援を賜りました。特に「チャドのスーダン難民キャンプ視察」の「緊急支援のお願い」に対し、多くの方々からお言葉をいただきました。いくつかご紹介させていただきます。

スーダンのことは日本ではほとんど報道されませんが、もっと目を向けなければいけない問題ですね。一日も早く紛争が終わることを願わずにはいられません。(神奈川県 鈴木麻弓様)

豊かな日本で暮らしていると世界には大変な状況の方々がいることを忘れそうですね。少しでもお役に立てたらと思います。(熊本県 大原マツ子様)

難民を支えた地元民の記事に感動いたしました。小額ですが少しでもお役に立てる喜びを与えてくださり、ありがとうございます。(東京都 久保綱子様)

「皆様一人ひとりにお返事を出すことができず申し訳ありません。皆様のご支援に心から感謝申し上げます」。(HCR協会 寄附担当:井上清治)

## .....「毎月倶楽部」に参加しませんか? .....

「毎月倶楽部」は皆様の銀行や郵便口座から毎月自動引き落としにより、難民支援にご寄附していただくプログラムです。毎月1000円以上(1000円単位)から参加していただけます。

UNHCRの活動資金は各国政府の任意の拠出金と民間からのご寄附に支えられています。しかし、UNHCRは恒常的な資金不足のため、予定していた援助プログラムを縮小あるいは中止せざるを得ないことが多々あります。このような状況の中、「毎月倶楽部」による継続的なご支援は非常に

心強いものです。例えば、毎月1000円でも、1年では1万2000円のご寄附となり、 TENT1張りが調達できます。つまり難民一家族5~6人が雨や風や砂嵐から身を守るができるようになります。

適宜ご支援くださる皆様に心から感謝申し上げますと共に、「毎月倶楽部」による継続的なご支援も合わせてご検討いただければ幸いです。一日のコーヒー数杯分、週末の映画1本分を世界の難民のために・・・。

ご希望の方には申込書をお送りします。(電話03-3499-2450 / FAX03-3499-2273)

## ● 領収証発送のお知らせ ●

HCR協会にお寄せいただいたご寄附は税控除の対象となります。

個人の皆様には、2004年度の年間領収証を、2005年2月上旬までに発送させていただきます。

法人の皆様には決算月締めでお送りしていますのでご確認ください。確定申告の具体的な手続きに関しましては国税庁のホームページをご覧ください。<http://www.nta.go.jp/>

## ご寄附の方法いろいろ

日本国連HCR協会はUNHCRの日本での公式寄附窓口です。

HCR協会では、以下の方法でご寄附を常時お受けしています。ご寄附は、特定寄附金として所得から控除できます。

郵便局(振込手数料は協会負担です)

郵便振替口座: 00140-6-569575

加入者名: HCR協会

銀行 UFJ銀行 青山支店 普通

口座 5251034 三井住友銀行

渋谷駅前支店 普通口座 3478195

口座名(・共通): エイチシーアールキョウカイ

銀行からのお振り込みはお名前の一部しか表示されません。受領証やニュースレター発送のため、必ず皆様のご住所等をHCR協会へ別途お知らせください。

毎月倶楽部

上欄を参照してください。

相続財産のご寄附

相続財産を得た方が、相続税の申告期限内にHCR協会に寄附した場合、課税価格の計算の基礎に算入されません。

また遺贈を検討されている方は当協会にご相談ください。

インターネット募金

HCR協会のホームページからもご寄附をお受けできます。ホームページでお申し込み後、郵便局やコンビニでお振り込みいただける用紙がお手元に届きます。あるいはクレジットカードや銀行振込も可能です。

詳しくは、下記ホームページをご覧ください。<http://www.japanforunhcr.org/gokifu.html>

# 難民支援のチャリティ・イベント バレエを通して広がる教育支援の輪

財団法人スターダンサーズ・バレエ団常務理事 太刀川瑠璃子氏に聞く

英国ロイヤル・バレエ団プリンシパルとして活躍なさっている吉田郁さんのご賛同を得て実現した、スターダンサーズ・バレエ団公演、ピーターライト版「ジゼル」が8月に開催され、今年も大成功を収めました。UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)と難民教育基金支援のための公演で、昨年と今年計2回のバレエ公演の純益から、合計500万円が教育支援事業に寄附されました。

スターダンサーズ・バレエ団常務理事である太刀川瑠璃子さんに、難民支援に寄せる思いをお聞きました。

バレエ団として、初めてのチャリティ公演だったとのことですね。

以前から、バレエを通して何か社会貢献活動ができないかと考えていましたが、なかなか実行に移せずにいました。しかし3年前の秋、癌の手術を受け、再発はまぬがれないだろうとの宣告を受けた時、思い残すことのないように思い切ってやってみようと思いついたのです。幸い吉田郁さんが、日本に帰国できる8月ならば参加できると言ってくださり、彼女の代表作のひとつである「ジゼル」全幕を、初めて日本で踊っていただけることになりました。また、バレエ団の役員を通して日本国連HCR協会をご紹介いただき、ひとつひとつご相談しながら、準備を進めていきました。

実際に2年続けて公演を実現されたご感想はいかがですか。

普段のバレエ公演ではなかなか望め

ない社会的な広がりを感じています。昨年は、前国連難民高等弁務官であり難民教育基金の名誉会長をされている緒方貞子さんにおいでいただきました。

吉田郁さんは今年、「ユネスコ平和のための芸術家」に任命されたのですが、このような社会貢献活動も評価されたと伺っています。また会場では、UNHCRと難民教育基金の募金窓口を務める日本国連HCR協会のボランティアの皆さんが呼びかけた募金のお願いに、大変多くのお客様がご協力くださったと伺い、とても嬉しく感じました(昨年20万5452円、今年41万1643円)。

素晴らしい芸術に触れた感動が、人々の難民支援の気持ちにつながるのかもしれない。

本当に質の高いバレエをご覧いただけるように、私達も努力を続けなくてはなりません。そこから生まれる感動が人々の気持ちを動かせるとしたら、素晴らしいことだと思います。緒方さ



2003年公演後の記念写真。  
左より、緒方貞子、吉田郁、太刀川瑠璃子(敬称略)。  
写真提供：スターダンサーズ・バレエ団

さんは「教育は難民にとって唯一の財産になるから」と、教育の重要性を訴え、UNHCRが最低限保障している初等教育に加えて、UNHCR50周年記念事業として中等教育を支援する民間組織「難民教育基金」(本部：スイス)を設立されたとのこと。

「勉強したい」というたくさんの難民の子どもたちの声に応えるために、これからも私達にできる支援活動を続けていきたいと思っています。幸い癌の再発もなく77歳を迎えることができ、この秋、バレエ団は創立40周年を迎えました。バレエを通して難民の教育支援の輪が広がることを心から願っています。

## プロフィール

太刀川瑠璃子(たちかわるりこ) 東京都生まれ。幼少よりバレエを学び、1947年に初舞台。65年スターダンサーズ・バレエ団創立。

## パリナック講師派遣のお知らせ 難民援助活動の現場から

パリナック(PARinAC = UNHCR-NGO Partnership in Action)とは難民援助活動の現場でUNHCRと協力関係にあるNGO(非政府組織)の集まりです。日本のNGOもUNHCR駐日地域事務所と定期的に意見交換を行っています。

HCR協会を含むパリナック参加のNGOが講演会の主催者を募集しています。学校、市民団体、地方公共団体などが主催する講演会に、パリナックが講師を派遣し、難民援助活動についてお話をさせていただきます。

国連機関やNGOなど、将来、国際協力の分野で活躍したいとお考えの方々のガイダンスとしても、お役に立てると思います。

【講師派遣団体】(順不同)

UNHCR駐日地域事務所、日本国連HCR協会、アジア福祉教育財団難民事業本部、アドラ・ジャパン、国際難民奉仕会(R.I. ジャパン)、シャンティ国際ボランティア会、ブリッジエーシアジャパン、難民支援協会、難民を助ける会、ワールド・ビジョン・ジャパン、ジェン(JEN)

【お問い合わせ】

ジェン東京本部事務局内 電話03-5332-9825  
e-mail: info@jen-npo.org  
ホームページもご覧ください。http://www.unhcr.or.jp/news/info/parinac/index.htm

認定NPO法人 日本国連HCR協会  
[国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)日本委員会]  
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-70  
UNハウス(国連大学ビル)6階 UNHCR内  
TEL: 03-3499-2450 FAX: 03-3499-2273  
Eメール: info@japanforunhcr.org  
ホームページ: http://www.japanforunhcr.org

「With you」No.3 2004年 第3号(12月)  
発行人: 赤野間征盛  
編集: 榎川勝也、中村恵、井上清治、奥平章子  
デザイン・製作: 榎ポイントライン